核廃絶平和行進
エヒメに引き継ぎ

【1面より】　ことは希望」と話しました。

かし県議はロシアのウクライナ侵略に乗じて、「非核三原則」から、核の持ち込みを容認する「非核二原則」への改定を議論する維新の会などを批判。池野副委員長は、「市内では食材高騰で給食のデザートが提供中止になっている。アベノミクスが招いた失政を大本から変え、賃金が上がる国にしよう」と呼びかけました。

参加した女性は、「生涯ずっと貧困に苦しんでいる。政治と暮らしのつながりを分かりやすい言葉で周りに伝えていきたい」と語りました。

県内の平和行進の最終日の22日、愛媛県へ引き継がれました。ＪＲ観音寺駅には多くの参加者が集まりました。森川理事は、三豊市からの行進も多かったことを報告、プーチン大統領の侵略行為で原発への攻撃や、「核兵器使用の脅しを批判し、これに対して平和への願いが一気に上がっていることを強調しました。

通しで参加する山口逸郎さんは、今回も各地の参加者の支えでここまで来られたことを強調しました。

終結集会では、岩部乃之県原水協筆頭代表理事が県内の更新について概括を行いました。

愛媛県の今井正夫平和行進愛媛実行委員長は、全自治体に平和行政への要請を行うが、毎年の要請で自治体の姿勢が変わっていることを報告。その例として、知事が職員への署名を快諾し、１０５筆を届けてくれたことを報告しました。

香川県の福井利夫事務局長は、「90歳になる山口さんが歩いてくれたのは大きな共感を得た。これで参加者が歩く行動にかられたのではないか。山口さんの行進は歩くだけではなく、声に出すことで全身で平和を訴えていること。香川県の反応は他県と比べてよかったとの感想を言いますが、それは山口さんの本気が共感を得られたからではないでしょうか。この教訓を学ぶことが大切です」と話しています。

塩江地域のまちづくりを考える　高松南部革新懇

高松南部革新懇は５月22日、「塩江のまちづくりを考える集い」を塩江町で開きました。入院ベッドのある塩江分院の早期建替えを求める会の大平一雄さんが挨拶。中山徹・奈良女子大学教授が町づくりについて講演しました。日本共産党の藤沢やよい市議は、塩江地域の入院ベッドが廃止されようとしている塩江分院について、早期建替えを求める運動や１０年後ごみ焼却施設を現在の２カ所から１カ所に集約していることを報告しました。

ディスカッションで、参加者から、一つの自治体だけでなく、地域格差の是正、公共施設の維持、地域資源活用など政治の果たす役割が大切であることがわかった。塩江の再生は香川全体の再生につながるなど話し合いました。

岡田まなみ市議は、コンパクトシティで人を中心部に集めようとしているが、市民の文化や教育、福祉の拠点がつぎつぎ廃止されている現状を語りました。

白川よう子四国ブロック国政対策委員長は「中山さんの話で、公共交通。バスの無料化は興味深く聞いた。塩江地域は絶対的条件。地域に住むだけで国土を守っている。高松の中心部を見ると、中央商店街やサンポートは空き店舗だらけ。周辺部を大事にしない街は、中心部も大事にしていない」など話しました。

中山氏は「まちづくりは人づくり。町のことを考える人々を増やしていこう」と呼びかけました。石田まゆ参院香川選挙区候補がメッセージを寄せました。

平和で安心できる社会へ

＼自由と平和まっすぐつらぬく。／
日本共産党
街頭演説会
6/12〔日〕
15:00スタート
コトデン瓦町駅前
お問い合わせ先　087-834-7311

＃比例は日本共産党

平和憲法の会が宣伝
ロシアのこと　憲法のこと

平和憲法を生かす香川県民の会は25日、高松市の瓦町駅前で早朝宣伝しました。

県内の日本共産党、立憲民主党、新社会党、社民党、「みどり・香川」と県労連などがリレーク。ロシアのウクライナ侵略について批判するとともに「平和憲法に私たちの生活は守られている」（新社会党・井角操氏）など訴えました。憲法についてのビラを出勤通学途中の人に手渡しました。

日本共産党の岡田まなみ高松市議は「一人ひとりの人権や尊厳が大切にされる社会の実現は憲法にも書き込まれている。しかし戦争はジェンダー平等社会の実現に最も反している」と話し、一部の自民党や日本維新の会が表明する「核共有」や、日米首脳会談での日本側に対する「軍事費の相当な増額を確保する決意」の表明を批判しました。

ビラを受け取った高校生が参加者と対話し「軍拡にはおかしさを感じる。格差も大きくなっていると思うので（そのような社会は）おかしい」と話しました。

学生支援
善通寺・高松

香川県の日本民主青年同盟と学生支援の実行委員会は18日、善通寺市で食料支援の活動に取り組みました。会場には、有志から提供されたコメや乾麺、レトルト食品など日持ちする食料品のほか、石鹸や生理用品などの日用品も並びました。

併せて取り組んだアンケートでは、「オンライン授業になっても学費が変わらないのはおかしい」「食費１日５００円」「バイトのシフトが減った」など困窮した学生の声がありました。

参加した大学１年生の男性は、「学費が高い。来年、弟も大学生になる。今まで親が学費を払ってくれていたが、２人分の学費は払えないため、兄の自分は奨学金を借りることになった」と話しました。

民青の藤沢直人県委員長は「コロナの影響を受けている学生はまだまだいる。学生が求めるかぎり支援を続けたい」と語りました。

25日には高松市内で学生支援を行いました。

‘南風’にひそうへい

いよいよ参議院選挙目前。ＧＷ明けから開始した街頭演説キャラバンに、多くの人々が足を止め、声援の広がりに日々励まされています。とりわけ高校生や、20代の若者たちからの「戦争を止めるために頑張ってください！」「賃金あげて！」の声は真剣です。

ウクライナ侵略をやめよ！私たちの声は、世界中の人々と一つになって各国政府と国連を動かし、プーチン政権を大きく包囲してきました。

「どんな紛争も戦争にはしない」という国連憲章に基づく平和の秩序を取り戻せるのか。逆にプーチン政権のような、力ずくで他国の領土や民族を支配しようとする歴史の逆流を許すのか。軍事力で平和がつくれるのかーいま世界と日本に問われています。

危機に乗じて自民や維新が叫ぶ大軍拡を許せば、社会保障のいっそうの削減、消費税増税は必至です。ガソリン代、生活必需品など物価急騰にもかかわらず、6月年金削減、10月高齢者医療費倍増の岸田政権にいよいよ大きな怒りが広がりはじめています。コロナ危機を経験しながら、なお弱い者いじめを続ける岸田政権を止めましょう。

平和とくらしの進路がはげしくぶつかり合う絶対に負けられない選挙。ここからが頑張りどころです。戦争を止めるのもくらしを守るのも、民主主義の力です。あなたの一票で日本は変えられます。何としても今度の選挙で議席を奪還し、憲法九条を生かして戦争の心配のないアジアの平和をつくるために働かせて下さい。